

変化しつづける記号

：ミyakミyak人気を〈未完了相〉から捉える

宮脇 かおり（桃山学院大学）

発表要旨：

本発表は人と記号の関係を、人が記号を使うという一方通行の力関係ではなく、記号が人間を動かす力を持っているというポストヒューマニズムの立場を取る。そして人間が操作不可能な偶発性を体現する記号として、2025 年に開催された大阪・関西万博の公式キャラクターであるミyakミyakを取り上げる。

2020 年 9 月 30 日の朝日新聞によると、公式ロゴマーク発表後にネットでは「カエルのたまごか」「新手の妖怪」「気持ち悪い」など否定的なコメントが相次いだ。しかし万博の盛り上がりとともにミyakミyakの人気は急上昇していった。この現象を説明する際に有益と思われるのが、小林茂(2025)が注目する未完了相という概念である。小林はベルクソンの時間論を参照しながら、未完了相とは「出来事が展開している只中に身を置き、その進行しつつある過程を幅のあるものとして内側から言及する」(p.173)と説明する。谷島(2026)は、この議論は「成立済みの記号関係だけでなく、記号が創発しつつある現場を扱えるか」を問うとして、記号論との関連を指摘している。本研究もその試みのひとつと言えよう。一方、これまでの議論で未完了相の例として取り上げられているのは人間の行為（動詞；○○しつつある）であり、名詞が未完了である事例は想定されていない。本発表は、名詞（特に視覚的イメージを伴う固有名詞）も未完了形となる可能性を指摘する。

ミyakミyakは、常に未完了で変化しつづける記号であると言える。最初はロゴマークのみだったものが、口と身体がついたデザインが発表され、名前が付き、着ぐるみが完成し、声がつき、アニメ化もされている。また、発表当初から二次創作が歓迎されており、攻めたデザインの商品（例：スニーカー、グラビア写真集）が次々と発売されてきた。

ミyakミyakグッズの売り上げは協会の想定を上回った(読売新聞 2025)。この人気は計算されたものとは言い難い。こうした偶発性は、適切な発話の時節を発話者が見極める重要性を説くカイロス概念と対照的であり、人間が記号自体や記号を使用するタイミングをコントロールすることが人心をつかむ上で重要であるとする前提を覆す可能性を持つ。

参考文献

朝日新聞.(2020 年 9 月 30 日夕刊).目立ってなんぼ！万博ロゴ「気持ち悪い」「愛着湧く」賛否. 8 ページ.

小林茂.(2025).『テクノロジーって何だろう？：〈未完了相〉で出会い直すための手引き』株式会社ビーエヌエヌ.

谷島貫太.(2026).リアルタイムの記号論：テクノロジーの〈未完了相〉をめぐって.日本記号学会情報技術とプラグマティズム研究会オンラインセッション. 2026 年 5 月 19 日. <https://www.youtube.com/watch?v=TWJFnEGrhm0>

読売新聞.(2025 年 12 月 24 日オンライン).ミyakミyak大人気！終盤に駆け込み…万博グッズの売り上げ想定超える 1200 億円.

<https://www.yomiuri.co.jp/local/kansai/news/20251224-GYO1T00088/>